

主 題：本物の救い

聖書箇所：ペテロの手紙第1 1章3－5節

神は私たちが礼拝者として救ってくださったのです。しかし、私たちは礼拝する喜びをいつの間にか失ってしまっている、ということがないでしょうか？こうして日曜日に教会に来ることも義務的になってしまっていたり…。神が私を救ってくださったのは、この神の恵みを感謝し礼拝するためです。このペテロの手紙第1の1：3でも、ペテロも「…ほめたたえられますように。」と礼拝を勧めています。ペテロ自身も日々、礼拝していたのです。罪赦されて救われた者は、神を心から礼拝する者へと変えられたのです。

では、救われた者はなぜ礼拝するのでしょうか？1：3から見てゆきましょう。

☆礼拝する理由、なぜ神を礼拝するのでしょうか？

・神が私を救ってくださったから。

3節の後半に「新しく生まれさせて」とありますが、これは「救い」のことです。再び、新しく生まれるための原因となる、という意味です。ヨハネの福音書に、イエスとニコデモの会話が書かれています。そこでイエスはニコデモに「人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」（ヨハネ3：3）と言われました。救われることなくして、永遠のいのちを得ることはないということです。救いは神によって与えられたものです。そして、これは「世界の基の置かれる前から」決めておられたことです。また、「ご自分の大きなあわれみのゆえに、」とは、神の働きによってクリスチャンが招き入れられた新しい関係を指します。神との親しい関係です。救われた者は神を礼拝する者です。神のあわれみを忘れてはならないと言います。

この「あわれみ」ということばを見てゆきましょう。エペソ2：1～9「あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。しかし、あわれみ豊かな神は、私たちが愛してくださったその大きな愛のゆえに、罪過の中に死んでいたこの私たちがキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。——キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜わる慈愛によって明らかにお示しになるためでした。あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行ないによるものではありません。だれも誇ることもないためです。」この1－2節から、私たちは救われる前はサタンに仕えていたのだと言います。3節、サタンが備えている地獄に向かっていて、生まれながらに罪人であったと。しかし、4－9節には、滅んで当然の私たちが、神は一方的な愛によって救ってくださったと言います。これが神のあわれみなのです。このことをペテロも言っているのです。ソロモンは「人の目にはまっすぐに見える道がある。その道の終わりは死の道である。」（箴言14：12）と言っています。神の一方的なあわれみなのだと言っているペテロは強調するのです。この「あわれみ」をパウロは「律法の要求を満足させることのできない欠陥ある人間に、神があわれみを示した」という意味で使いました。ペテロは「苦しみの中にいる私たちの不幸、悲しみに対して、神があわれみを示された」と、その意味で使ったのです。絶望的な状態にある私たちに、神はあわれみを示されました。受けるに値しない私たちへの、これは神の祝福です。

3節の初めに「私たちの主イエス・キリストの父なる神が…」とありますが、ここに、イエスが誰であるかを教えています。完全な人であり神である方です。「父なる神」を「神」と呼ぶことにイエスの人間性が現わされ、「父」と呼ぶことでイエスの神性が現われています。三位一体の神を示しています。そして「私たちの主」とは、救いに与った私たちにはイエス・キリストは「主」である、ということです。もし、救われる前の自分の生き方を変えることなく信仰生活を歩んでいるなら、まちがいを犯しています。かつて、サタンが主人であった私たちは、悔い改めて方向転換しました。イエスを「救い主」として受け入れました。ゆえに、イエスが私の「主」となったのです。イエスに従う者となったのです。これが神と私との新しい関係なのです。そして、「イエス・キリストを自分の主人としていること」、これが聖書が私たちに教える正しい教理なのです。

☆救いがもたらすもの、神から与えられたすばらしい祝福を二つ見ましょう。

1. 生ける望みが与えられた 3節

「生ける望み」、この「生ける」とは、生きている、いのちのある、活気のある、という意味で、新しい人生、希望を持って生きる人生です。「持つように」とは、生まれ変わったことの結果です。この世もよく“ポジティブに生きよう”と言いますが、世が教えることに耳を傾けるなら行き詰まります。サタンは人に救いを得させないようにと働くからです。救われた者には神のことばに立たないようにと攻撃します。この世の知恵に頼るようにと…。

しかし、私たち救われた者の希望は、天にある永遠のいのちです。これは、どんなときにも変わることはない希望です。生ける水はその人のうちで泉となってわき出るのはです。どんな状況の中でも私たちはこの希望によって生きて行けるのです。私たちはこの揺るぎない希望に満ち溢れているのでしょうか？では、どうすればこの希望を持てるのでしょうか？二つのカギがあります。

1) キリストの復活をいつも覚えること

復活は死に完全に勝利されたこと、神が約束を守られる真実なお方であることの証明です。三日後によみがえるという約束です。私たちは賛美します。“イエスがいるから明日はこわくない、イエスがいるから恐れは消え、イエスがいるから人生はすばらしい、”と。これが私たちの確信であるようにしたいものです。

2) みことばを覚えること

私たちは多くの宣教師の伝記を読んで感銘を受けます。しかし、最も多くの信仰の証はこの聖書にあります。ローマ15:4にはこのように書かれています。「昔書かれたものは、すべて私たちを教えるために書かれたのです。それは、聖書の与える忍耐と励ましによって、希望をもたせるためなのです。」と。旧約時代の信仰者をみると、何度も何度も失敗し罪を犯す人間を、神は何度でも赦されていることがわかります。そのような記録は私たちを励ますものです。そこに成されている神のみわざのすばらしさを知り、希望が与えられるのです。

2. 資産を受け継ぐようにして下さった 4節

永遠の資産は、神から与えられる数々の祝福です。この祝福は、「栄光のからだ、罪のないところへと導かれる、神と自由に交われる、神からほうびが与えられる、」です。罪から救われたこと、そして、救われた後の信仰生活の歩みにおいて、神に喜ばれることを成して行けること、これらはまさに、神のみわざです。私たちの奉仕、働きはこの神への感謝であり、愛の現われです。私たちができるほんの小さな神へのお返しなのです。神から押し出されてゆくこと、様々なところに重荷をもつこと、教会だけでなく外に向けても遣わされている所で神の前に最善をなすのは、神を愛しているからです。神にどのように応えてゆくのが、救われた者のこの世に生かされているこの人生の歩みです。クリスチャンとして歩んだことに、神は報いを与えてくださるのです。「よくやった！」と。私たちは「すべて神の助けがあったからできた」のだと、神に栄光を帰すのです。

資産について、三つの形容詞があります。「朽ちることのない」とは「腐らない、不滅の」、「汚れることのない」は「汚染されていない、いつもきよいもの」、「消えて行くことのない」は「しぼんで枯れるようなものではない、永続する」という意味です。マタイ6:19-21には「自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびで、きず物になり、また盗人が穴をあけて盗みます。自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。」とある通りです。

今日一日をどのように生きるのか、神に喜ばれることが何なのか、悔い改めて今日から変わろうとすること、神はそれを望み、私たちにチャンスを与えてくださっているのです。

☆資産が与えられる確実性 4 b, 5節

1. 天にたくわえられている

これは、「見張る、監視する、固く守る、守りつづける」ということで、完了形の受身です。「もう、神が私のために天にたくわえてくださっている、固く守り続けてくださっている」というのです。だから、安心しなさい、失うことがないのだと言います。

2. 守られており

「見守る、保護する」というこれは軍隊用語です。兵士によって守られている、外部からの攻撃に対して守ることです。これは現在形の受身です。「今も神によって守られ続けている」のです。

5節後半の「救い」は、罪赦されてきよい存在として神の前に立つことができる、その「救い」ではあ

りません。義認ではありません。また、聖化＝日々の信仰生活で罪がきよめられて、イエスに似た者へと変えられてゆくこと＝でもありません。これは、後に罪を犯すことのない栄光のからだをいただくこと、その救いを指すのです。また、これはすでに用意されているものです。「終わりのときに」とは、イエスがもどって来られるときです。

この約束は救われた者に与えられている約束です。

「信仰により、神の力によって守られており」とは現在のことです。今、必要であり与えられ続けるものです。「神の力」、これがクリスチャン生活のカギです。自分の弱さ、愚かさを覚えることです。2コリント 11：30「もしどうしても誇る必要があるなら、私は自分の弱さを誇ります。」と、12：5にも、12：9にも、パウロは自分の弱さを誇ると言っています。それは「キリストの力が私をおおうため」だと言います。これが私たちがしっかり覚えるべきことです。「信仰により」は神への信頼です。この生き方がパウロであり、ペテロであり、そして、私たちも…であるはずで